

お取引先さま各位

カカオ・チョコレート週刊ニュース 35号

2013/02/12 発行

株式会社 立花商店

生田 渉

お世話になります。カカオ・チョコレート関連のニュースを前週の出来毎の中から注目ニュースを5本程度ピックアップして、発行しています。カカオやチョコレート中心に取り扱っております弊社と致しましては、広く関係者の方々に読んでいただけるように、少しずつでも有益な情報をお届けできればと考えております。宜しくお願い致します。

1、市況の動き：£1450付近の狭いレンジの取引で方向感のない状態で継続。

①2週最高：LDN 市場£1,468 / NY 市場\$2,246（共に2月5日）	先週比 LDN - £15/NY + \$31
②2週最低：LDN 市場£1,429 / NY 市場\$2,161（1/30、1/28）	先週比 LDN + £22/NY - \$12
週内差額（①-②）：LDN 市場£39 / NY 市場85	

【1月28日（月）】 NY、3日続落＝LDNは3日ぶり反発

ニューヨーク市場のココア先物は3営業日続落。ポンド安・ドル高に加え、ポジション解消にも圧迫され、約7カ月ぶりの安値となった。

ポンドが対米ドルで5カ月ぶりの安値を付けたことは、ニューヨーク市場では圧迫要因となる一方、ロンドン市場では支援要因となった。ただ、カカオ豆生産で世界首位のコートジボワールで生育状況が改善していることから、上値は限定された。

ニューヨーク市場の3月きりは、12ドル（0.6%）安の2161ドルと、2012年6月以来の安値で終了。一方、ロンドン市場の5月きりは3営業日ぶりに反発し、5ポンド（0.4%）高の1432ポンドで引けた。

【1月29日（火）】 両市場とも堅調

ニューヨーク市場のココア先物は4営業日ぶりに反発した。3月きりは34ドル（1.6%）高の2195ドルで終了。前日には一時2157ドルと、当りりとしては2012年6月以来の安値を付けた。ロンドン市場の5月きりは12ポンド（0.8%）高の1444ポンドとなった。

リバティ・トレーディングの関係者は「過去数営業日には安値更新が続き、若干売られ過ぎの状態だった」と指摘した。ココア市場では、西アフリカでの先渡し物の売却をめぐる観測が圧迫要因になっている。ほかにも、主産国コートジボワールの港湾で、輸出用カカオ豆の着荷量が増加していることも弱材料になった。

【1月30日（水）】 NY、一時7カ月ぶり安値、LDNも反落

ニューヨーク市場は、世界的にだぶつき気味の供給を背景に反落、3月きりは一時2155ドルと7カ

月ぶりの安値まで下落した。その後やや持ち直し、終値は16ドル（0.73%）安の2179ドル。ロンドン市場の5月きりも反落、5月きりは15ポンド（1.04%）安の1429ポンドで引けた。コートジボワールのココア輸出業者SAFが、火災の影響でカカオ豆の加工施設を最大で3カ月間閉鎖すると発表したものの、相場にはほとんど響かなかった。RJOフューチャーズの主任市場ストラテジスト、ヘクター・ガルバン氏は「通常はこうしたニュースは強材料となるが、そのようには受け止められなかった。現時点で相場は簡単に反転する用意が整っていないように見える」と指摘した

【1月31日（木）】両市場とも反発、未決済約定が増加

ニューヨーク市場は、実需筋や投資家が前日の7カ月ぶり安値を受け、買いを入れ反発。3月きりは、26ドル（1.2%）高の1トン＝2205ドルで終了した。前日には、2155ドルと2012年6月以来の安値まで下落した。

1月30日の未決済約定残高は1.1%増の21万0646枚。過去最大となった前日の20万8369枚を上回った。

ディーラーらによると、世界最大の生産地コートジボワールでは、業界の改革を受け、先物売りによるヘッジ取引が増え、未決済約定の増加につながっているという。

ロンドン市場の5月きりは、8ポイント（0.6%）高の1437ポンドで引けた。未決済約定残高は増加を続けてきており、1月30日には前日から1250枚増加し、23万6369枚とほぼ5年ぶりの高水準となった。

【2月1日（金）】NY、横ばい＝ロンドンも続伸

アナリストらは依然、2012～13年度の世界市場が供給不足になるとみているが、西アフリカのカカオ豆生産見通しがやや改善したことなどから上値は重かった。

ニューヨーク市場の3月きりは、荒い値動きの後2205ドルと横ばいで終了。1月30日には、当りとして昨年6月以来の安値水準の2155ドルに下げている。

ロンドン市場の5月きりは7ポンド（0.5%）高の1444ポンドで引けた

【2月4日（月）】NY、LDNとも軟調

ニューヨーク市場では、3月きりと5月きりのスプレッド活発となる中を下落、3月きりは13ドル（0.6%）安の2192ドルで引けた。

ロンドン市場は反落。5月きりは10ポンド（0.7%）安の1434ポンドで終了した。

英国のあるブローカーは、「実需の買いがロンドン市場の下値を支えた。実需筋が突如、十分なカバーを終えたと判断すれば、相場には売り圧力が加わる可能性が高い」と指摘した。

【2月5日（火）】ニューヨーク市場で2週間ぶり高値

両市場とも反発、ニューヨーク市場では一時2週間ぶり高値となった。テクニカルな買いや、最大産地コートジボワールでの供給懸念が背景。

ニューヨーク市場の3月きりは54ドル（2.5%）高の2246ドルで終了。一時は1月22日以来の高値である2249ドルを付けた。1日の上げ幅としては昨年11月14日以来の大きさだった。ロ

ンドン市場の5月きりは34ポンド（2.4%）高の1468ポンドで引けた

【2月6日（水）】 両市場とも反落＝商品相場安を映す

両市場とも、他の商品相場の軟調を映し、反落した。前日は、テクニカルな買いや、主産国コートジボワールの乾燥に伴う供給懸念を背景とした買いで2%以上、上伸した。

ニューヨーク市場3月きりは23ドル（1%）安の2223ドルで終了。市場関係者は「2200～2300ドル水準は適正相場と言えるだろう。日々の値動きは若干あるが、方向感のない展開になっている」と指摘した。ロンドン市場5月きりは10ポンド（0.7%）安の1458ポンドで引けた。

【2月7日（木）】 反発

両市場とも反発。値固め局面入りする中、対ドルでのポンド高に支えられた。ニューヨーク市場の3月きりは15ドル（0.7%）高の2238ドル、ロンドン市場の5月きりは3ポンド（0.2%）高の1461ポンドでそれぞれ引けた。

【2月8日（金）】 両市場ともほぼ変わらず

両市場ともほぼ変わらず。主要産地の西アフリカでミッドクropp育成に好ましい天候が予想されていることが背景。

ニューヨーク市場では、3月きりが6ドル（0.3%）安の2232ドルで引けた。トレーダーは「英ポンド高がニューヨーク市場の相場をわずかに支援した」と述べた。ロンドン市場の5月きりは14ポンド（1%）安の1447ポンドで引けた。年初来、狭いレンジ取引が続いている。

2、インドネシア、スラウェシ島からの12月カカオ豆輸出6%減少(2/4)

インドネシア・ココア協会（Askindo）は4日までに、主産地スラウェシ島からの2012年12月のカカオ豆輸出量が8349万3800トンとなり、前年同月比6.2%減少したと発表した。

3、ネスレなどに6000万ユーロの制裁金＝チョコレート価格で談合＝独当局(2/1)

ドイツ連邦カルテル庁は31日、チョコレートの価格を談合して決めるなどのカルテル行為があったとして、食品メーカー、ネスレ（スイス）のドイツ子会社など11社に対して6000万ユーロの制裁金支払いを命じたと発表した。

このほか制裁金の対象となったのは、米クラフトフーズのドイツ子会社など。カルテル庁によると、クラフトフーズとドイツのチョコレート会社アルフレッド・リッターは2007年、双方の値上げの詳細を伝え合っていたという。これとは別に、ネスレもリッター社を含む2社と価格談合を行っていた。カルテル庁は「2007年当時は、チョコレートを作るために必要なミルクやカカオなどの材料価格が大幅に上がっていた」とした上で「一部の企業は、こうしたコスト上昇を消費者に転化しようとした」と指摘している。

4、ガーナのカカオ豆買付け数量が1月17日現在で、539,247トンに到達（1/30）

ガーナのメインクロップの買付け数量の合計が10月12日～1月17日時点で539,247トンとなったことが判明した。これは昨年と同期間に比べて18.3%減少となる数字である。

1月17日で終了する14週目の1週間での買付け数量は24,641トンで、1月3日に終了した12週目の週間36,900トンよりも減少した。

ガーナは、コートジに次ぐ世界第2位のカカオ生産国で今シーズンは前年対比5%減少となる80万トンの収穫数量を予測している。

5、コートジの10月～12月のカカオ豆輸出数量、前年対比で僅かに減少（2/1）

コートジからの2012年10月から12月までのカカオ豆輸出数量は前年の同期間対比で約1.3%減少となる313,243トンとなったことが判明した。

2012/2013シーズンは生産者への最低買付け価格を保証することと目的に大規模な構造改革が実施された中で10月にスタートした。

下記の数字は、コートジの2つの港であるアビジャンとサンペドロ港からのカカオ豆の輸出数量である。

	<u>Dec 2012</u>	<u>Nov 2012</u>	<u>Dec 2011</u>	単位：トン
Abidjan 港	68,578	56,218	126,098	
San Pedro 港	80,623	60,931	80,784	
単月合計	149,201	117,149	206,882	
10月からの総計	313,243	164,042	317,225	

6、欧州市場：安定した供給見込みにより、ココアバターレシオは低下傾向。（2/7）

欧州市場でのココアバターの価格が、現在のカカオ豆の順調な供給を背景に今週は下落傾向にあるとトレーダー筋が話している。

ココアバターの1月-3月荷渡しの価格はロンドン先物市場価格に対して現在、1.90レシオで先週の2.0レシオから下落した。また、10月-12月荷渡しのレシオは先週2.02レシオであったのに対して、今週は1.8レシオであった。

『今週は沢山のココアバターの価格提示があったよ、現在は皆ココアバターの価格が更に下落すると予想しているよ』トレーダーは語る。

5月限月のロンドン市場価格は10ポンド上昇もしくは0.7%上昇で、1,468ポンド/トン（≒\$2300）であったが、カカオ豆の価格は現在まだ改善が見込まれているミッドクロップの予測に価格の下げ圧力を受けている状態である。

コートジ産の良い品質のカカオ豆の相場は現在、先週金曜日のトン当たりロンドン相場+50ポンドのプレミアムから、+30ポンドのプレミアムへと減少している。

需要は抑えめな状況において、世界第1位のコートジのカカオ豆の供給が改善してきている状況がカカオ豆の価格を更に下げるとディーラー筋は予測している。

しかし、先週、乾燥して、暑い天候がコートジの主要なカカオの産地に戻ってきたことによって、カカオ豆の生産数量と、品質に悪い影響を与えるのではないかと生産者やアナリストの間では懸念もされて

いる。

コートジのカカオの着荷数量は10月のシーズン開始から2月3日までに854,000トンに達した。これは昨年同時期の集荷数量の902,650トンと比較するとまだ少ない数字となっている。

*特別の注釈がない記事は全て、基本的にロイター通信社のニュースソースを基に作成したものです。

《お問い合わせ先、配信希望または、停止のご連絡先》

株式会社 立花商店 東京支店 生田

TEL03-5783-3545 w-ikuta@tachibana-grp.co.jp